

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	神奈川県高相合同庁舎	階数	地上5階
建設地	相模原市南区相模大野六丁目3957-1	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	250 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2024年1月26日
敷地面積	4,312 m ²	作成者	(株)国設計
建築面積	1,488 m ²	確認日	2024年1月29日
延床面積	6,219 m ²	確認者	(株)国設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 77% (92 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 74% (92 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 74% (92 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>合同庁舎として必要な機能を備えるとともに、構造体I類とし耐震安全性を確保した。また、誰でもが安全安心な施設とすることを目標とした。</p> <p>建物形状・色彩は周辺環境を読み取り計画を行い、敷地内には可能な限り緑化を設置。</p> <p>外皮に断熱施工することにより建物の熱負荷を低減するよう配慮した。</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>屋光制御は、庇とカーテンにて制御している。</p> <p>建築材料は、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用して発生源対策とした。事務室にCO₂センサーを設置し常時監視システムとした。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>各階に休憩室等を設け、業務の質を確保した。</p> <p>内装仕上材はメンテナンスや日常清掃がしやすいよう配慮した。</p> <p>構造体及び設備機器は庁舎としての安全性が確保できるよう配慮した。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>敷地及び周辺を考慮した植栽計画を検討した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>BPI=0.63, BEI=0.64, LED照明設備を採用。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>雨水利用等を行うことで水資源保護に配慮した。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>施設利用者のための駐車スペース等を十分に確保した。</p> <p>庁舎に適した照明計画を行った。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される